

日本歯周病学会第4回中部地区臨床研修会報告

去る平成30年1月28日、第4回日本歯周病学会信越・北陸地区臨床研修会を下記のとおり開催しましたので、ご報告いたします。

主催：特定非営利活動法人 日本歯周病学会

共催：公益社団法人 三重県歯科医師会

大会長：田所 泰（公益社団法人 三重県歯科医師会会長）

実行委員長：三谷章雄（愛知学院大学歯学部歯周病学講座教授）

運営事務局：愛知学院大学歯学部歯周病学講座内（担当：菊池毅・菱川敏光）

日時：平成30年1月28日（日曜日） 10:00～16:00

会場：三重県歯科医師会館

テーマ：早期からはじめる歯周治療と再生療法の有用性

プログラム

- ・特別講演I 「副鼻腔炎とその治療 -じつは結構いろいろあるんです・・・-」
小林正佳 三重大学医学部准教授
- ・歯科衛生士教育講演 「インプラント周囲疾患とその対応」
菊池 毅 愛知学院大学歯学部准教授
- ・教育講演 「超高齢社会における歯周病予防法のパラダイムシフト ～細菌制御から宿主制御へ～」
藤田 剛 広島大学歯学部准教授
- ・特別講演II 「歯周組織再生療法の勘所」
三谷章雄 愛知学院大学歯学部教授
- ・ランチョンセミナー 「リグロス®による歯周組織再生療法」
菱川敏光 愛知学院大学歯学部講師

三重県・津市において小雪のちらついたなか、平成30年1月28日、第4回日本歯周病学会中部地区臨床研修会が開催されました。臨床研修会は、「各地域の歯周病の予防ならびにその治療の向上を通じて、国民の口腔保健に寄与する」目的を達成するための学会活動の一つとして、学会による研究の成果や新しい技術のみならず、基本的な手技等を全国各地で研修することを目的として行う地方研修会です。地元の歯科医師会と連携して開催するのが特徴で、今回は三重県歯科医師会との共催事業として行いました。田所泰三重県歯科医師会会長や学術部の先生方、事務局の方々の献身的なご協力により、隣県開催ではありましたが、滞りなく準備・運営を出来たことは、本当にありがたいことでした。また、実行委員長である三谷章雄教授は平成29年度より日本歯周病学会臨床研修委員長の任を受けており、委員長として初開催する臨床研修会となりました。

開催当日は寒波の襲来により、車での移動に不安があり、また、例年類を見ないインフルエンザA型・B型の同時流行という状況にもかかわらず、予定通りの多くの参加者にお集まりいただくことができました。研修会は田所泰三重県歯科医師会会長による開会の挨拶に始まり、大会テーマである「早期からはじめる歯周治療と再生療法の有用性」を基調として、歯周組織再生療法やインプラントといった高度な処置のために必要な歯周基本治療の重要性や、歯周炎と全身の関連、近接する耳鼻科領域の知識を増やすことで患者の長期的なQOLに寄与するための治療戦略という、発展性のある内容となりました。小林准教授の特別講演では上顎歯列に近接する鼻副鼻腔の疾患とその治療について具体的な症例・治療法をご教示いただきました。続く菊池准教授の教育講演では、インプラント周囲組織のメンテナンスについて、最新の学術報告を多く取り入れて知識を整理し、インプラント施術時に必要な長期管理に対する視点を参加者に与える内容でした。また、藤田准教授の教育講演は超高齢社会で起こる歯周病に関連する問題が、どうして起こるのか、どうしたら対応できるのかについて、病因論から思考と対策の転換を行うことで、将来実現可能な歯周病対策を考えるものでした。最後に三谷委員長は、再生療法をより確実に行うためのポイントを、術式毎に具体的に示すことで処置の完成度を向上させる内容となりました。各術式の説明に至る以前に特に強調されたブラッシング指導に対する考え方の説明では多くの受講者が頷いたり、スライドをメモしたりしており、関心の高さがうかがえました。お昼のランチョンセミナーには100名を超える参加があり、リグロス®（科研製薬株式会社）の購入資格となる講演を菱川講師により行って頂きました。最終的に参加者186名（歯科医師：134名、歯科衛生士：52名）を集めた本会は三谷章雄実行委員長の閉会挨拶により、無事幕を閉じることが出来ました。

おかげさまで盛会のうちに閉幕できましたことを、ご参加の皆様、三重県歯科医師会関係者の皆様、ご協賛いただいた企業各社様、そして運営関係者の皆様に改めて御礼申し上げます。以上をもちまして、ご報告とさせていただきます。

